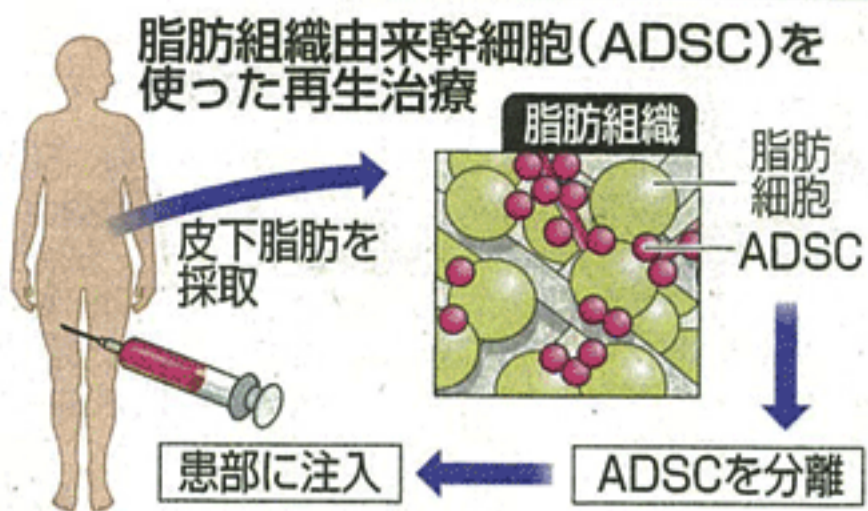


信大病院が血管再生の臨床研究1例目

脂肪幹細胞の治療効果確認



信州大病院(松本市)の循環器内科と心臓血管外科を中心とするチームが12日までに、脂肪に含まれる幹細胞を使った血管再生治療の臨床研究の1例目を実施した。脂肪の幹細胞は、患者自身から採取するため移植後の拒絶反応がなく、採取する際の身体的な負担も少ない。1例目の患者は血流が悪かった右脚に移植。以前は少し歩くと脚が痛み、100メートルほどしか歩けなかったが、治療後は歩ける距離が3倍に延び、治療効果を確認した。

患者 歩行距離3倍に

移植に使った細胞は脂肪組織由来幹細胞(ADSC)。臨床研究は、循環器内科、心臓血管外科、形成外科、閉塞性動脈硬化症先端治療学講座、先端細胞治療センターが連携し、名古屋大病院と共同で実施している。動脈硬化で脚の動脈が狭くなったり詰まったりする閉塞性動脈硬化

る血管内治療など標準的な治療ができない患者が対象だ。患者の腹部から脂肪約300グラムを採取し、専用の機器でADSCを抽出。血管を再生したい部分に40〜60カ所に分けて注射する。

1例目は、県内の閉塞性動脈硬化症の60代女性。右太ももの血管が狭くて血流が悪いため、13メートル歩くと痛みが生じ、最長113メートルしか歩けなかった。移植から4週間後、あらためて歩行距離を測ったところ、160メートルまで痛みは出さず、最長320メートルまで歩くことができたという。

主治医の柴祐司・循環器内科講師は「十分な治療効果が

確認できた。痛みも和らぎ、患者も満足している」。池田宇一・同科教授は「今後3年間で30例ほどを目標に実施していきたい」としている。

今後の治療実績を踏まえ、自由診療と保険診療を併用できる「先進医療」として実施できるように、国に申請する計画だ。



脂肪組織由来幹細胞(ADSC) 脂肪の幹細胞。血管、骨、心筋などに分化する。現在、再生治療に主に使われている骨髄細胞は、採取する際に全身麻酔が必要で、高齢になると採れる量も減るが、ADSCは局所麻酔だけで大量に採れる特長がある。